

『Accademia di Teatro coccia』（ノヴァーラ、テアトロコッチャ）での 指揮者育成アカデミーの参加

《概要》

ミラノ近郊の町、ノヴァーラの劇場が運営するオペラアカデミーの指揮者育成コースに研修生として参加し、研鑽を積む。

アカデミーでは、実地の経験を通じてロッシーニのオペラや新作初演、バロックオペラなどを習得する。また、イタリアのみならず世界各地で活躍する指揮者 Matteo Beltrami(マッテオ・ベルトラミ)氏など、優れたオペラの専門家たちが数多く講師を務めている本プロダクションに参加することで、経験値を得て、実際に劇場内ではどのようなことが必要なのかを学びたい。

アカデミーは、コロナ期間のため小規模ではあるが2020年12月から開始されており、2021年3月より本格的なプロダクションが開始する。

《目的》

私はイタリアで約3年間コレペティトゥアとして、数多くの歌手や、指導者、指揮者などに関わり、イタリアオペラのスタイルやどのように歌手と時間を共にしていくかを学んできた。それは将来自分が指揮者としてイタリアオペラに貢献するためであり、これらの経験はそのための基礎であると考えている。

今回指揮者育成コースを通じて、歌手にとって一番快適なテンポや、歌手の強みを引き出せる刺激的な表現方法を会得したい。さらに具体的な可能性としては、このアカデミアは劇場と通じているため、実際にアカデミー生が本番経験を積むことができる。

指揮者の場合は、実際に人を相手にしなければわからないこと(実質的な練習の進め方や人とのコミュニケーションの取り方など)がたくさんある。一つのプロダクションがどのようにできていくのかなどをこれまでに学んできた作り方と比較しつつ、さらに経験を積みたい。

《スケジュール》

2021年9月までに開催される全てのアカデミーに参加。

2021年3月より本格的なプロダクションが始まる。

以下の作品のリハーサルや場合によっては本番に指揮者として立ち会う。

3月 Pauline Viardot 作曲のシンデレラ (イタリア語)

4月 ロッシーニ 小荘厳ミサ曲

5月 ロッシーニ作曲 なりゆき泥棒

6月 バロックオペラ (曲目未定)

また、7～8月は、コロナ期間にできなかった活動を行う予定である。

《将来の夢・今後の展望》

私は歌が好きだし、歌手が好きだ。音楽を志したきっかけも歌であるし、最初はテノール歌手を目指していた。私は一人一人の歌手から自然な歌を引き出せるような指揮者になりたいと思う。歌手が舞台上で輝く姿を見ると何とも言えない喜びを感じるからだ。そのため、指揮者として歌手に関わる「歌劇場の音楽監督」になることが私の夢だ。数多くのクラシック音楽が時代を越えて人々に親しまれているのは、そこに普遍性を発見するからであり、私はこの普遍性（人間の根本的な部分におけるドラマ）こそ現在の世の中に最も必要なことだと考えている。そのため歌は世界を変える大きな力があると確信している。そんな素晴らしい芸術に携わり続けたいと思う。今後の展望として、アカデミー終了後は世界各国の指揮者のためのヤングアーティストプログラムなど様々なコースに携わりながら、イタリアで培ったものをどのように活せるのかを探っていきたい。

《プロフィール》

まるやまたかひろ
丸山貴大（指揮者）

東京音楽大学音楽学部指揮科卒業。群馬県立高崎高等学校在学中3年間、合唱部にて学生指揮者を務める。2014年レインボウ21,サントリーデビューコンサートに出演。東京音楽大学学内にてパーヴォ・ヤルヴィ、ニルス・ムースの指揮公開レッスンを受講。2016年、びわ湖ホールで行われた「沼尻竜典 オペラ指揮者セミナー『ドン・ジョヴァンニ指揮法』」の受講生に選抜され、氏の指導を受ける。期間中、大阪交響楽団を指揮。また藤原歌劇団にて副指揮者を務める。その後イタリアに渡り、ミラノ市立音楽院にてコレペティートルをルーカ・ゴルラ氏に師事。ピアニストとして2019年にマルティーナフランカで行われた音楽祭にてコレペティートルを務める。またマリエッラ・デヴィーア氏、アンナ・マリア・キューリ氏、ソニア・プリーナ氏など国際的な歌手のレッスンピアニストを多数務める。現在はミラノ近郊の町ノヴァーラにて劇場付属のアカデミー指揮コースにて研鑽を積んでいる。これまでに指揮を広上淳一氏、ドナート・レンゼッティ氏、マルコ・ボエーミ氏、マッテオ・ベルトラミ氏、三河正典氏に、ピアノを野田清隆氏に、スコアリーダーを荒尾岳児氏に師事。